



# 獅子島架橋



～ 橋に「かける」思い～

広報ながしま5月号で紹介した獅子島架橋実現に向けて、出水市区の県議会議員2人が6月と9月の県議会で一般質問しました。2人の見解を紹介します。

## 2人の県議が一般質問

薩摩川内市の甕大橋が昨年開通した。甕島の次は獅子島へ、架橋実現に向けて動きたいタイミングだと考える。

だが、架橋実現に向けて動いていく中で、甕大橋と比較されてしまうことは避けられない。チャンスでもあるが、比較されることにより消極的な意見も伴う。

令和2年7月豪雨のような災害時の住民の安全確保などを考えると、架橋は必要であり、そのための第一歩が県道昇格であると私も考える。

私の専門は福祉分野で、議会でも獅子島の子どもや高齢者をキーマンとして質問した。橋が架かっていなければ、そこから不便さや住民

サービスの不十分な部分を訴えた。

長島町では獅子島架橋のための基金を積み立てたり、県への要望活動を行ったりしているが、県がどのように動いてくれているのかは見えづらい。今後は県も巻き込みながら動きを見える化し、架橋実現に向けて尽力していく。

獅子島の人口は平成27年の国勢調査によると689

人で、県内にある人口500人を超える有人離島のうち唯一県道が整備されていない。いきなり橋を架けるのではなく、獅子島の林道の一部でも県道に昇格することが架橋実現への第一歩だと考える。

長島町は黒之瀬戸大橋や

伊唐大橋など「橋」が生活のなかで必要不可欠である。

橋が生活にどのような恩恵をもたらすか知っているからこそ、獅子島架橋実現という夢にかける思いは強いと感じる。

獅子島架橋や県道昇格はもちろん、三県架橋や西回り自動車道などの全ては、出水地区に多大な影響をも

たらすと考えている。

今後も一般質問のみならず、委員会などでも獅子島架橋実現の第一歩としての県道昇格について訴え続けていく。



県道昇格から架橋実現へ

伊藤浩樹議員(出水市区)



住民サービスを当たり前

小幡興太郎議員(出水市区)